

# JAUW 茨城支部だより 2021年度-2号

URL <http://jauw-ibaraki.net/> 2022年2月19日一般社団法人 大学女性協会(JAUW)茨城支部 発行

寒さが身に沁みるこの頃ですが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。オミクロン株の感染拡大で水戸の梅まつりも延期になりました。まだまだ、コロナ対策は必要ですね。

水戸市男女平等参画推進月間講座「女たちは”YOROI”を脱いだか」を9月に予定していましたが、コロナ禍で延び延びになっていました。やっと、2022年1月22日(土)に実施することができました。20歳代から70歳代までの4人の女性が、それぞれが育ってきた時代の中での男女平等の有様や違和感などの体験を本音で話をし、「ホンネの座談会」は大変好評でした。大変よかった・良かったは合わせて92%、参加して男女平等参画について認識は変わりましたかは64%、社会全体における男女差について男性が優遇・どちらかと言えば男性は合わせて67%、固定的な性別分担「男は仕事、女は家庭」について反対・どちらかと言えば反対は合わせて75%でした。この75%という数字は男女平等の考え方が浸透してきたと捉えていいのでしょうか?登壇者の話を聞く中で、その生きてきた時代背景が女性の生き方に大きく影響を与えていることが読み取れました。また、20歳代、30歳代の登壇者の話から、時代が動いているということ、男女平等に明るい光が射してきたことを強く感じました。

2月19日20日開催予定されていた「こみっとフェスティバル2022」に(一社)大学女性協会茨城支部のことを皆さんに知っていただきたい、できれば一緒に活動する会員の獲得も思っ



てエントリーしましたが、コロナ禍のため展示のみとなってしまいました。対面での発信が出来なくて残念です。来年度参加できればと思います。

最近気になる言葉があります。「平等 EQUALITY」と「公平・校正 EQUITY」です。地域で共に暮らすということを実践していくためには、「平等」と「公平・公正」を模索していく必要があるのではないかと考えています。

(支部長 安藤)

## 水戸市男女平等参画推進月間講座「女たちは” YOROI” を脱いだか」

### ホンネの座談会より

1月22日に みと文化交流プラザで行われた「ホンネの座談会」では、4人の登壇者のこれらについてもかたられました。ちょっと覗いてみましょう。

70代 YMさん：誰一人取り残さない社会の実現

暮らしやすく、寛容な社会

- ・創造力と情報・知識の収集
  - ・社会の課題を他人事にしない  
⇒ 自分事におとしこむ
- 若い人にどうやってつなげるか



60代 KMさん：今までの仕事の経験を生かす

大学の通信教育部に編入し、日本語教師を目指している

学校制度の中のジェンダーの問題を研究

SDGsに関心を持ち、社会で役立っていく

30代 ANさん：妻、母であるまえに一人の人間として、今後も後悔しない人生を歩む

夫婦で平等に生きていけるよう互いの人生を尊重し合える関係を築く  
パパ、ママの性別的な役割を確立しない子育てをする。

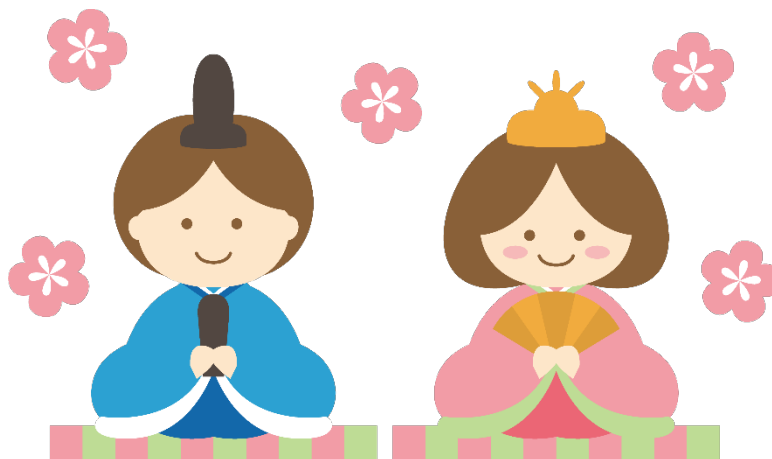
社会全体が男女共同参画社会を目指せるよう、できる限り発信し続ける。

20代 MNさん：自分で選べば、結果を人のせいにしたり後悔したりしない

いつでも、誰でもチャレンジできる、選択肢も無限大

続けることこそ正義。続けられる人が成果を出す

短期的な選択と長期的なバランスで最高の結果を



## 参加者の感想

男性の参加者は「私ひとり」という状況で会は始まりました。

20代から70代の各世代の女性達が、実体験に基づく声は生々しいものがありましたね。

特に男女平等を語る上で、切っても切れない働く女性の育児問題については、昔も今も引き継がれているものであると、痛感致しました。

「男性が前のめりに育休を取らないため、育休が取りづらい」

「ちょっと家事や育児を手伝う男性を“育メン”と褒め讃える風潮はいかがなものか」

というお話もあり、確かにそうかもしれないと思いましたね。

また、育児のお話ではありませんが「出席簿が男性から始まるのは不公平」という声もあり、驚きましたね。

しかしどれも理解できるお話でした。

今後どのように世の中が変わっていくものか、動向を見守りたいと思っております。

一点、気になったのは、それぞれの問題を、今後どのように解決したらいいのか具体策については、お話が無かったこと。

また、男性は私一人しか参加していなかったのも、貴重な女性たちの声が、男性の耳に届かない現実もあるなと感じました。

今回はコロナ禍ということもあり、40代、50代の女性の講話が聞けなかったのも残念。

きっとその世代ならではの悩みがあったことと想像致しております。

とはいえ、泣き寝入りせずに声を上げてる女性の皆さまに。心から拍手を贈りたいと思います。

非常によいお話合いをされていると思いますので、今後の貴会の発展を祈っております！

「魂の女性成長支援 浅野塾」 代表 浅野ヨシオ



## フェアトレードをもっと身近に

フェアトレードは、「寄付や物質的な援助ではなく、経済的・社会的に弱い立場にある人々が努力に見合った正当な報いを受けられるよう、適正（フェア）な価格で商品取引を継続することにより、途上国の持続的な生活向上を支える取引のこと」。フェアトレードの輸入業者は、一般商社のように市場価格で買い付けるのではなく、生産者の生活が成り立つように考慮し「フェア」な価格で直接買い付けています。また、フェアトレードに関わるNGOは資金の立て替えや、技術的な協力も行っており、生産者には安定した価格で継続的に買い付けることを約束することで安心して自立できるようになることを目指すことができ、それによって買う側も安全な商品を安定した価格で消費できるようになります。

（松本由美子）

## 3月定例会のお知らせ

日時：3月19日（土） 13：30～15：30

場所：水戸文化交流プラザ 5F ミーティングルームA

テーマ 「フェアトレードをもっと身近に」

講師 松本由美子氏

※3ページで触れたフェアトレードについて詳しいお話が聞けます。

皆様お忙しいと存じますが、是非ご出席ください。

※場合によっては、オンラインでの定例会になります。



### ◎ 編集後記

『新たな社会の希望の活力は、女性のソフト・パワーである。女性の知恵が発揮されれば、職場であれ、地域であれ、創造性が漲り、調和が図られていく。女性が安心して伸びやかに働ける社会を皆で作っていくことが大切である。』（「女性に贈る100文字の幸福抄」より）  
本の中からこの言葉を見つけた時、女性の本質を見抜き応援してくれている人がいて、うれしくなりました。

コロナの終息は何時になることか見通せませんが、知恵を発揮して現状でもできることを見つけ行動していきたいと思います。  
（白ゆり）